

## 日本心エコー学会の会員皆様へ

### 避難所での下肢エコー検診 ボランティアの御願い

拝啓

テレビ等でご存知かと思いますが、4月14日の夜に発生しました震度7の地震は、大きな地震に接したことの無かった熊本の住人に大きな混乱をもたらし、特に震源地の熊本市隣接の益城町を中心に多大な被害を受けました。さらに、これを前震と知らずに疲労困憊で就寝した4月16日未明に阪神大震災と同じマグニチュード7.3の大地震が本震として発生し、震源地の南阿蘇はもとより、熊本市およびその周辺にも壊滅的な被害をおよぼしました。これにより、建物やインフラは完全に破壊されました。

現在、避難所生活者は10万人以上おり、その2倍以上が車中泊を強いられています。これは家屋が全壊していなくとも、多少なりともほとんどの家屋は損壊しているため、震度4以上の強い揺れがつづき、家屋内で安心して寝ることができないためです。車中泊は下腿を下げて寝ることになるため、深部静脈血栓症の危険性が極めて高く、多数の重症肺塞栓が発生しております。

つきましては、このような現況を打開するため、深部静脈血栓の予防啓発と早期発見を行いたいと思っております。広範囲の避難所や車中泊の施設を巡回するには、多数の人員が必要となります。

突然の御願いで恐縮ですが、会員の皆様で、熊本にボランティアとして活動を引き受けていただける方(医師、コメディカル問いません)がいらっしゃいましたら、ご連絡いただければ幸いです。

現在も、強い余震が続き、ライフラインは未だ復旧のめどが立たず、不安で眠れない日々を過ごしている状況です。

御高配賜りますよう切に御願ひする次第です。

どうぞよろしく御願ひ申し上げます。

敬具

連絡先)

エコノミークラス症候群トータルケア支援チーム

統括責任者 掃本誠治

実務担当者 橋本洋一郎 TEL 090-6776-4767

学会担当者 西上和宏 (済生会熊本病院)